

Kagoshima Nursing Federation

renmei

- 鹿児島県看護連盟広報機関誌



Vol.

80

JUNE

2025

Masahiro ISHIDA

石田
まさひろ

参議院議員

看護の質と 自身の役割

石田まさひろ 参議院議員

☑ 特集

働きたい職場を
つくるヒント

畑中 勇二

☑ 研修報告

鹿児島県看護連盟リーダー研修Ⅲ
看護と政策を考える意見交換会
九州ブロック協議会
青年部フレッシュナース研修

<https://k-kango.net/>



参議院議員

石田まさひろ

MASAHIRO ISHIDA

石田まさひろ
チャンネル



鹿児島県看護連盟の皆様、日頃より温かいご支援を賜り感謝申し上げます。

令和7年度予算が可決しました。当初予算案から高校授業料無償化等の修正、さらに高額療養費制度の自己負担額上限引き上げが見送られ、現憲法下初となる参議院で再修正された予算となりました。無事に予算が可決され、予算委員、国会対策副委員長として胸を撫で下ろしています。

予算委員会では質問にも立ちました。質問の中心においたのは医療・介護の危機です。他業種において賃上げが進む中で、医療・介護従事者の賃上げは進んでいません。医療・介護従事者の賃上げを訴え、総理から賃上げ施策推進が明言されました。施策が実行されるよう、引き続きしっかりと注視していきます。

一方で、医療機関、介護事業所の経営は厳しく、その実態を訴えた上で、物価や人件費の動きを自動的に組み込む予見性のある報酬体系の必要性や、複雑な算定要件による現場負担の改善等を求めました。

また、看護学校の定員割れが顕著となっています。特に地方で新人看護師の確保が極めて困難になってきており、まさに医療崩壊の危機です。看護教育のあり方の見直しも訴えました。

今後、更に人口減少が進む中で、医療機関の役割は医療だけでなく、地域の街づくりの拠点になりつつあります。地域の中核的な医療機関は介護、健康増進の役割も担っており、さらに、医療機関のそばに住宅やサービス付き高齢者向け住宅等も増え、住民の方々の生活を支えるショッピングセンターもできています。すでに医療機関は地方において、命とくらしを支えるまちづくりの中心となりつつあります。医療機関を地方創生の重要な柱として整備すべきことを伝え、総理からは前向きな回答を得ました。

今、医療・介護が置かれているこのような危機的状況が一刻も早く改善されるよう、尽力して参ります。引き続き、皆様の力強いご支援をお願い申し上げます。

会長の挨拶

2025



さあジャンプの年 ～我々の底力を発揮する時が来た～

鹿児島県看護連盟 会長

吉崎 和子

KAZUKO YOSHIKAZI

新緑の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

新年度が始まりました。皆様の職場は、新人さんを迎えられさぞかし、賑やかになっていることでしょう。プリセプターのお兄さま、お姉さま方は、ご多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。新人ナースの皆さん、患者さんや、先輩ナースのお名前を覚えてましたか。一日も早く、新しい環境に慣れて、力を発揮して下さい。

さて、今年は、2025年。騒がれていた年に遂に突入しました。団塊の世代が全員後期高齢者になることで、社会保障費の増加、医療・介護人材の不足、労働力の不足など、社会に大きな影響を及ぼす問題の総称ですが、すっかりその状況におち入ってしまっています。ある病院では人材不足のため、病棟を閉鎖せざるを得ない悲しいことが起きています。現場では、外国人を採用したり、出来る限りの業務改善がなされています。しかし、これらにも、限界があります。看護職議員の方々が国政の場で、対策を立てて下さっていますが、まだまだ不十分です。これから2040年に向けて、もっと深刻な状況になってきます。まず現場でやれることはしっかりと実践し、「現場の声」を届けることです。そして、国政の場では、法律、制度の見直し等を力を合わせて頑張っていたくことにあります。

夢と希望を抱いて入職した新人ナース達が、元気で生き生きと働ける環境をつくるのは先輩ナースの義務でもあります。また、ナースになりたい中高校生を増やすことも大事です。ナースが元気でなければ国民の命は護れません。楽しい職場環境をつくるためにも、国政の場の力は必須です。これからは、もっと政治に関心をもって、大切な一票を投じましょう。

「明日の未来をつくる」ために、全国で頑張っているナース達が、夢をかなえられる社会を目指そうではありませんか。

今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。



石田まさひろ議員が語る “看護の質”と自身の役割

「人手不足対策は、これまでのように『働く環境の整備』だけに力点を置いた政策では不十分なんじゃないかと、まず感じるようになったんです。じゃあ何か手はないかと考えたときに、今、意識して重点的に取り組んでいるのが、いわゆる『質の問題』なんです」

日本看護連盟の組織内候補予定者、石田まさひろ議員はそう語ります。現場の実感を起点に語られるその言葉は、制度的な整備だけでなく、看護の「あり方」そのものに踏み込んでいます。

「看護、医療、介護の現場の基本的な考え方を変えていく。僕は、それが必要だと思ってるんです。もっと言うと、患者さんの思いをきちんと中心に置いたケアを、医療・介護・看護がしっかり展開できる現場をつくりたい。それが僕のやりたいことなんです」

石田議員は、今回の診療報酬改定で ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実施が入院基本料の要件に加えられたことに触れ、次のように語ります。

「これはもう、国の意思だと思っんです。『患者さんの思いを大事にした医療をしないと、入院基本料はありませんよ』っていうメッセージ。まさに今、僕が言っていることと重なると思っています」

じ方って全然違うんですね。そういうことを偶然じゃなくて、きちんと意識してできる力を持つこと。それがつければ、同じ時間のベッドサイドケアでも、患者さんの満足は大きく変わるし、看護師のやりがいも全然違ってくると思います」

「本当に大事だと思っているのはね、病棟で月に1回でもいいから事例検討会を開いてほしいんです。特に複雑な事例を取り上げて、病棟の仲間たちがとことんその人について深掘りして、『本当は何なんだ？』って、これでもかかってぐらい考え抜く。そういう体験の積み重ねが、本当に有効だと思います」

適切なケアを適切なタイミングで、気遣いしつつ意図的に実行できるのが望ましい。その力を養うために、「事例検討会」等を活用し、個々の看護職のスキルアップを図るべし。

「このような発言は、現場にプレッシャーを与えるような『現場にもっと頑張ってもらいたい』というメッセージだと誤解されそうです。しかし石田議員が伝えたいのは、そうではありません。こうした『質』を育てることができる環境を整えることが、自身の役割だと強く認識しています。」

『質の向上』という言葉は、看護界では「専門性の強化」として語られることが多いですが、石田議員が語る『質』は少し違います。

「もちろん、自分の専門分野でより高いレベルで活躍できるようにする努力は大事だし、それは絶対必要です。でも、僕のイメージはそうじゃなくて、『看護師一人ひとりの実力を上げましょう』ということなんです。臨床の現場で、患者さんにとって『この人の看護を受けてよかった』って思える場面を、どれだけ増やせるか。それが、質のイメージなんです」

つまり、ここでいう『質』とは、単に資格や肩書に裏打ちされた専門性の高さを指すのではなく目の前の患者一人ひとりに対して、その人の状況や思いに応じた最適な看護を実践できる力を意味しています。患者の立場に立ち、タイミングよく声をかけ、必要な支援をさりげなく意識的に行う——そうした日々の積み重ねが、看護の質をかたちづくと石田議員は考えています。

「声かけひとつでも、患者さんが困っているときに適切なタイミングで声をかけることができれば、それだけで安心できる。ちょっと身体を支えてあげるだけでも、その気遣いがあるかないかで、患者さんの感

ら、それこそが質の向上。まさしく、それだと思っんです。だから、そういうたことができる現場をつくっていくのが、僕の役割なんだと思っています」

「僕の役割」と石田議員が繰り返し語っているのは、「現場が本来の力を発揮できるように、その環境を整えることこそが自分の仕事」だという、まさに信念です。政治の役割とは、現場に一方的な努力を求めるのではなく、現場での努力が正当に評価され、実を結ぶための「土壌」を整えることにほかなりません。看護師一人ひとりが、自らの判断と誇りを持って行動できる現場、そしてその姿が社会から尊重される仕組みをつくること——それが政治に課された本来の責務だと、石田議員は強調しています。現場と政策は、相反するものではなく、同じ方向を目指して進む車の両輪です。石田議員の言葉のひとつひとつには、看護職の未来を現場とともにつくっていくという強い意志と、確かな信頼が込められています。

石田議員の思いのこもった動画は下記から！



YouTube



スタッフが「この職場を人に紹介したい」と思えるかどうか。それは、職場環境の「信頼度」を示す指標にもなります。

リファラルで紹介された方がすぐに転職するとは限りませんが、時間をかけて信頼関係を築いていくことが将来につながります。忘年会や勉強会に招くなど、緩やかな接点を持ち続ける工夫も

リファラル採用は、信頼のバロメーター

こうした人材と出会うためには、リファラル採用（紹介）やSNSでの発信など、つながりを広げることも大切です。

看護師×地域活動↓地域とのつながりや広報力アップ

看護師×ITスキル↓DX推進に貢献
看護師×コーチング↓チーム力向上に寄与

いま注目されているのは、「看護師資格＋何か」の力を持った人材です。専門性に加えて、ITスキルやコミュニケーション能力、地域活動など、個性や経験を組み合わせた人材が、組織に多様な価値をもたらします。

たとえば…

「1+αの強み」を持つ人と出会うには？

効果的です。さらに、採用や発信を担うチームを院内で組織することで、現場からの声や視点が採用に活かされます。

「正社員中心」から「柔軟な協働」へ

人材確保のあり方も変わってきています。たとえば…

- ・副業マネージャーとのスポット契約
 - ・プロジェクト単位での外部人材活用
 - ・他法人との人材シェアや連携
- 「雇用する」だけでなく、「協働する」という選択肢も、有力な戦略の一つです。

学び続ける組織へ

従来の姿		これからの姿
医療・看護だけの研修	→	医療＋異分野の学び
指示待ち型の学習	→	自ら学ぶ姿勢を支援
内向きの採用・育成	→	外部連携によるオープンな成長

これからの医療・看護の現場には、「学び続ける文化」の定着が不可欠です。「学習する組織」への進化が、長期的に職場を支える土台になります。



「働きたい職場」をつくるヒント

「人がいない」わけではない

もしかすると、「選ばれる職場」になるチャンスかもしれません。最近、看護の現場でこんな声を耳にすることはありませんか？

「求人を出しても応募が来ない」
「どこも人手不足だ」

確かに、医療・介護の人材確保は全国的な課題です。けれど一方で、常人が集まる職場も存在します。「ここで働きたい」と思ってもらえる職場には、どこか魅力的な違いがあります。今からでも、そんな「選ばれる職場」へと変わっていくことは可能です。

一緒に、具体的なヒントを見ていきましょう。

選ばれる組織には「柔軟さ」がある

- ・いま注目されているのは、働きやすさに配慮した柔軟な運営です。例えば、こんな取り組みを実践する職場が増えています。
- ・午後からの出勤OKなど、柔軟なシフト制度の導入
- ・一度離れた人も戻りやすい「カムバック制度」
- ・副業や兼業によるスキルアップの後押し

DXの推進は、未来への投資

- ・限られた人材でも最大の成果を出すには、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が重要です。
 - ・業務効率化ツールの導入
 - ・ペーパーレス化の推進
 - ・ICTによる情報共有
 - ・AIやデータを用いた業務改善
- こうした取り組みをリードできる人材は、今後ますます価値が高まっていくでしょう。

まずはできることから

立場に応じてできるアクションはさまざまです…

経営層・理事長・院長…採用や育成の方針を見直し、未来戦略を描く
看護部長・管理者…外部マネジメント人材や副業人材の導入を検討する
リーダースタッフ…「この人と働きたい」と思える文化づくりに取り組む
若手スタッフ・一般スタッフ…「職場の魅力伝える」担い手として、日々の工夫を重ねる

採用の課題をどう乗り越えるか。それは、未来の仲間と出会い、共に創る道をどう拓くかという問いでもあります。小さな工夫から、職場の風景が少

- ・長期休暇が取りやすい職場文化
 - ・キャリア形成の支援制度の充実
- ある病院では、退職者の再雇用を制度化したことで、人材確保と求人コストの削減を同時に実現しました。こうした「働きやすさ」の工夫を、組織の物語として外に発信していくことも、共感を呼ぶ大切なステップです。

求められるのは「夜勤要員」だけではない

求人を出するとき、「夜勤ができる人」「常勤スタッフ」が欲しいという声が多く聞かれます。

けれど、実際に組織を支え、育ていくうえで重要なのは、現場を導くマネージャー層の存在かもしれません。上位職の人材が入ることで、チーム全体の雰囲気や方向性が大きく変わることがあります。

しかも今は、必ずしも正社員である必要はありません。副業や業務委託といった形で、外部のマネジメント人材と柔軟に関わる方法も広がっています。月に数回の関わりでも、現場に新しい視点や変化をもたらすことができる可能性は十分に期待できます。

少しずつ変わっていくはずです。あなたの一歩が、組織の未来を動かすことにつながるのだと強く思います。



畑中 勇二

1971 年生まれ
株式会社 KINARI 代表取締役
看護師・介護支援専門員

「訪問看護ステーションきなり」「居宅介護支援事業所きなり」を通じて、「すべての人に家に帰る選択肢を」を実現することを目指して、日々の仕事に向き合っています。

医療機関で現場マネジメントの経験を積み、起業後は経営に取り組んできました。これらの経験を活かし、外部機関への伴走支援やDX推進支援にも取り組んでいます。

人生は、死ぬその瞬間までの暇つぶし。どうせ暇つぶしなら、少しでも誰かの役に立ちたい——そんな思いを胸に、日々活動しています。

REPORTS 01

鹿児島県看護連盟リーダー研修Ⅲ

2024/12/14 土

テーマ

看護政策の実現のために、組織代表を国政に送る
～現場の“困った”を政策へ



令和6年11月30日、「未来の看護に向けた職場環境を考える」看護の専門性を発揮するために」をテーマに掲げ、令和6年度鹿児島県の看護と政策を考える意見交換会が鹿児島県市町村自治会館で開催されました。

特別講演では、参議院議員の石田まさひろ先生がリモートで登壇され、「未来を切り拓く看護」をテーマに、「量を守り、質を追求する」ための7つのポイントについてお話くださいました。人手不足、離島医療、離職、賃金の問題など、多岐にわたる課題に対する石田先生の深いお考えに触れることができ、現場の声を大切にされている先生の熱意がひしひしと伝わってきました。同時に、私たち自身が職場環境の改善と、より良い看護・医療を患者さんへ届けるために、真剣に取り組むべきであると痛感させられました。

次に、県議会議員の吉留厚宏先生からの活動報告がありました。また、医療現場からの情報提供として、看護師特定行為研修センターの設置について米盛病院看護師特定行為研修センター

副センター長の野上拓也先生から、無医地区離島へき地診療所の看護職への支援についてNPO法人メッセンジャーナースがこし代表理事の田畑千穂子先生から、それぞれ具体的な報告がありました。これらの発表は参加者の関心も非常に高く、その後のグループワークでも活発な議論が交わされました。

鹿児島県議会議員や鹿児島市・鹿屋市議会議員を交えてのグループワークでは、各施設の現状や問題点について活発な意見交換が行われました。議員の方々が私たちの職場環境を深く理解しようと熱心に耳を傾け、多くの質問が飛び交いました。この場合は、看護現場の現状と要望を直接伝える貴重な機会となっただけでなく、議員と医療関係者との相互理解を深める大変有意義な時間となりました。

*研修様子の写真はイメージです。

REPORTS 02

看護と
政策を考える
意見交換会

2024/11/30 木

今年度のリーダー研修Ⅲは、現場における最大の課題である「人手不足」について、職場の問題を明確化し、対策を検討することを目的として開催されました。各職場での活動のヒントを見出していたくことをねらいとして、取り組みの好事例報告も共有されました。石田議員の講演では、「不足しているのは“看護職”ではなく“看護”である」という気づきを通じて、多くの参加者に目からうろこのようなインパクトを与えてくださいました。講演では、①ナースセンターの強化、②業務の効率化、③N・P・（ナース・プラクティショナー）、④多機能看護、⑤教育を核とした問題提起があり、職場環境の改善や働き続けられるための対策が現場にも求められていることが示されました。これらの内容は、その後の実践報告の中でも、まさに具体策として理解することができました。英氏の講演では、「ジャンプの年」である令和7年度に向けた目標や、連携強化の方向性について、今後の施設幹事やリーダーに求められる役割を具体的に示していただきました。また、コンプライアンスについては、運動の注意点を改めて確認することともに、「看護の代表を国政に送りましょう」という呼びかけを、しっかりと私たちの中に落とし込んでくださいました。実践報告会では、県内各地域における人口減少や高齢化、医療・介護需要の減少といった背景も含め、定年制度や看護学校の入学定員割れ、突発的な人手不足への対応など、現場で懸命に工夫しながら取り組まれた貴重な事例が報告されました。報告に対する意見交換も活発に行われ、参加者の関心の高さがうかがえました。やはり、多くの看護職が「職場で」「地域で」「看護職として」、安心して看護を提供し、看護が継続できる環境を守りたいと、強く感じたのではないのでしょうか。今後の私たちの活動こそが、明日の看護を支えていきます。皆さま、これからも共に頑張ってくださいませう！

REPORTS 03

九州ブロック
協議会
(宮崎)

2024/09/14 土

令和6年9月14日（土）午後、宮崎市にて九州ブロック協議会が開催されました。本協議会は、九州ブロックの会長・副会長・幹事長・支部長・青年部が一堂に会し、①情報共有とネットワークの強化、②第27回参議院議員選挙に向けた戦略の共有という2つの目的のもと、九州7県から98名が参集し、盛大に執り行われました。開会の挨拶は、九州ブロック協議会の久米春代会長より行われました。続いて、日本看護連盟幹事の岡山亮憲先生より、「新たな選挙戦略」をテーマにご講演いただきました。講演では、①選挙の仕組みと後援会の方針、②コンプライアンス対策、③看護の未来という4つの視点から、次期参議院選挙について分かりやすく説明がありました。また、2023年度日本看護連盟通常総会において、石田まさひろ氏が次期参議院議員選挙の組織内候補予定者に決定したことが報告され

ました。石田議員の実績や、3期目をめざす中での課題として、組織内候補の得票数による貢献度の比較といった選挙情勢も示されました。後援会の方針も「量より質」を重視する方向へと見直され、入会者数が確実な投票につながる運用が求められていることが強調されました。こうした話を通じて、「看護の代表は、私たち自身が支える」という思いをあらためて強く持つきっかけとなりました。後半は、参加者がそれぞれの立場に分かれてグループを編成し、「それぞれの立場で考える選挙戦略」というテーマのもと、今後取り組むべきことについて意見交換を行いました。他県の多様な取り組みや想いを共有することで、自身の意識も高まり、看護課題の解決に向けて政治的な働きかけを強化していく必要性を再認識しました。支部長として、理解者を増やす活動の重要性を実感する機会となりました。



令和7年度看護連盟会員を募集しております



正会員 看護職の方

日本看護連盟会費	5,000円
鹿児島県看護連盟会費	3,000円
合計 年間	8,000円



賛助会員

賛助会員年会費 1,000円

鹿児島県看護連盟の活動に賛同いただける方はどなたでも加入いただけます。



学生会員 年会費無料

看護師、保健師、助産師又は准看護師の資格を得るために学ぶ学生で、看護連盟の主旨に賛同していただける方

申し込み方法

入会手続きや申込み書類のご請求は、事務局へ電話・FAX・メールにてお問い合わせください。

会員情報変更

住所や所属施設など会員情報に変更がある方につきましても下記までお問い合わせください。

問い合わせ先

鹿児島県看護連盟事務所

〒892-0816 鹿児島市山下町9番31号 電話 (099) 219-5334
第一ボクエイビル203 FAX (099) 219-5336

Eメール: office.kagoshima@kango-renmei.gr.jp

編集後記 EDITOR'S NOTE

新年度最初の発行となる今回は、石田議員特集の活動報告を掲載しております。今年は勝負の年でもあります。看護師の声、医療現場の声が少しでも国政に届くように願っているなかで、少しでも皆さんに現状をお届けできればと思っております。また、各地で行われた研修の報告もあります。幅広い年齢層の声を届けることができると共に、皆さんの学びの姿勢や前向きな取り組みに触れ編集担当者としても刺激を受けました。今年度も、読んでよかったと思っていただけるような内容を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

広報委員：有木・森田・畑中

研修報告

REPORTS 04

青年部 フレッシュナース研修

2025/01/24 金



フレッシュナース研修は、看護連盟青年部が主催する研修のひとつで、今回で第4回目の開催となります。この研修には、若手ナースが抱える仕事上の悩みや人間関係の不安を共有し、解決のヒントを探ることで、明日からの看護師人生をより楽しく、そしていきいきと過ごしてほしいという願いが込められています。第1回・第2回はコロナ禍の影響でオンライン開催となりましたが、令和5年度の第3回は、ようやく対面での実施が実現し、県内各施設から約50名の方々に参加いただきました。青年部による熱いプレゼンテーションでは、仕事に対する考え方や人間関係との向き合い方についてのレクチャーが行われ、お悩み相談ではオープンチャットを活用した意見交換も実施されました。手を挙げて発言するのは少し気が引ける場面でも、チャットを通して「意見が言いやすかった」と好評でした。令和6年度は、少し趣向を変え、「もつと肩の力を抜いて、レクリエーションを通じて日頃のストレスやモヤモヤを発散できる場があってもいいのでは？」という

青年部員のアイデアのもと、あれこれと試行錯誤を重ねた結果、今回初めてのボウリング大会を開催することになりました。「THE Bowling Night」と題し、県内各施設から選ばれたフレッシュナースの皆さんにお集まりいただきました。我々青年部の「オールドナース」も加わり、総勢20名で3ゲームを楽しみました。開催前は、お互い初対面の方が多く「果たして楽しくプレイできるだろうか」という不安もありましたが、開会の宣言とともにその空気は一変。現場で日々頑張っているあなたも、少し悩みを抱えているあなたも、そして運動不足の私たちも、笑顔と活気にあふれるひとときを過ごすことができ、心身ともにリフレッシュできました。知らない者同士でも、こんなに盛り上がるのかと正直驚きましたが、SNSやメールが発達しすぎた今、人と人が直接ふれあう場が少なくなっているからこそ、このような時間がより大切にされるのかもしれないと感じさせられました。表彰式では、ささやかではありますが、スコアに応じた「豪華景

品(?)」ももちろん用意し、初の試みは無事に幕を閉じました。大会終了後には、恒例となりました副委員長・福元優一氏による熱いミニレクチャーも実施。「看護連盟って何だろう?」というテーマで、連盟の役割をわかりやすく紹介し、さらに「ピンチをチャンスに変える」というテーマで、前向きな人生のヒントを語っていただきました。内容はフレッシュナースだけでなく、オールドナースである私たちの心にも深く響くものでした。今回の企画は、後日のアンケートでも非常に高い満足度を得ることができました。少しでも皆さんの元気や前向きな気持ちにつながったのであれば、私たち青年部にとつてこれ以上の喜びはありません。これからも青年部では、「楽しく学べる」企画を継続してまいります。多くの方にご参加いただき、連盟活動へのご理解とご協力を賜われましたら幸いです。そして一緒に、看護の現場をより明るく、活力あるものにしていきましょう。また皆さんにお会いできる日を、心より楽しみにしております。

平山 龍一(鹿児島市医師会病院) = 文・報告



Lumone

快適に眠る喜びを。

世界に誇れる羽毛ブランド
HARUO DOWN

いい羽毛からしか、
いい羽毛ふとんは生まれない。

GOOD DESIGN



HARUO DOWN ▲



品質保証 HARUOラベル



東洋羽毛九州販売株式会社

〒890-0063 鹿児島県鹿児島市鴨池1-64-25ウイング鴨池1-B

鹿児島営業所



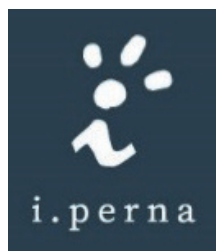
0120-881-125



生活に潤いと豊かさを求める世界の人々に

取扱商品

- アコヤ真珠 ●ベビーパール
- 黒真珠 ●南洋真珠（白・ゴールド）



イッシン iS パール（同）

〒862-0920

熊本市東区月出8丁目3-52

☎0120-32-2020

ip erna by イッシン

営業時間 9：00～17：00 定休日 日・祝日